

ご近所の お医者さん

□
489
□

野崎徳洲会病院院長 中川秀光さん 大東市



脳虚血発作

高血圧や糖尿病、高脂血症の基礎疾患がある人がなりやすい動脈硬化によって、血管が細くなると、脳細胞に十分な血液が届けられなくなり、虚血という状態になりやすくなります。

脳梗塞による明らかなまひや言語障害、視野

欠損、高度精神機能障害に

なる前兆として、「一過性脳虚血発作」

があります。なんとなく手がだるい▽茶わんや箸を落とす▽足に力が入らない▽ろれつが回らない▽ふらつく▽歩いたら片方に寄る——などの症状が出

症状が一過性でも注意を

るものの、数時間後によくなくなるのがこの発作です。このような症状は通常、疲れているからと放置されることが多くありますが、注意が必要です。

原因は、心臓から脳につながる左右計4本の血管(頸動脈と椎骨動脈)や、

脳内血管に狭さくがある場合が多く、潰瘍も原因となります。狭さくが多く見られる箇所は、心臓から脳につながる総頸動脈から、内頸動脈と外頸動脈に分岐する部分ですが、狭さくが起きた部位によって症状は異なります。通常、血管径の70%以上が狭さく状態になると、脳の血流が低下し、さまざまな機能をつかさどる脳の領域によって、前述のような症状が出て、多くは手術の対象となります。

また、狭さく部が70%以上でなくとも、潰瘍形成によって内側の膜が破壊されると、血小板を主体とした血の塊が生じ、それが血流に乗って脳内の末梢部に梗塞をきたし、症状が表れます。しかし、時間と共に血栓が溶解し、血管が再開通すると症状が消失します。これが一過性脳虚血発作の病態です。

診断には、脳全体の様子を見る必要がある。必要です。加えて、同時に血管画像が撮れるMRAという、頸部血管から脳血管を描き出す検査も使います。治療はカテーテルを使った治療と、狭さくの原因になっている血管内部を直接切断・切除し、血管を再建する二つの方法があります。一過性とはいえ、症状が表れたときは、重篤な症状となる前に早急に脳神経外科を受診してください。

診断には、脳全体の様子を見る必要がある。